

令和7年度 世田谷区自立支援協議会本会（第1回）議事録

日 時 令和7年7月25日（金） 18時30分～20時30分
開催方法 集合開催及びオンライン
場 所 東京リハビリテーションセンター世田谷 1階 地域交流スペース
出 席
（会場） 鈴木敏彦 荻野陽一 河合高鋭 中川邦仁丈 等々力寿純 上保恭子
野村武夫 阪田純 太田一郎 花澤雪乃 谷田部成徳 木暮紀子 松本俊一
堀伸治 大野圭介 大野一徳 高橋明良 片岡学 田中正則 松浦聖
杉中寛之
（オンライン） 丸山晃 山梨武夫 鈴木範夫 杉山真生子 西村周治 土屋仁 川邊循
永嶋千秋 島添聡 濱健太郎 田中克佳 八木亮 橋元晶子 鈴木さおり
小池宗和 嶋津武則

（敬称略）

第1部

1. 開会挨拶

2. 世田谷区自立支援協議会委員構成 資料1-1

3. 令和6年度自立支援協議会活動報告 資料2

4. 令和7年度自立支援協議会活動計画について 資料3

5. 令和6年度日中サービス支援型グループホーム実績報告 資料4

6. 障害者差別解消に関する令和6年度の実施状況及び令和7年度実施予定について 資料5-1 資料5-2

7. 世田谷区からの報告・協議事項

（1）次期インクルージョンプラン策定について 資料6

（2）地域共生社会推進事業（たがいちがいプロジェクト）について 資料7

8. 質疑応答

～Zoom参加者は退出～

第2部

9. 地域課題抽出シートを活用した意見交換

（1）趣旨説明 資料8-1

（2）グループでの意見交換 資料8-2 資料8-3

（3）発表

10. 閉会挨拶

11. 事務連絡

〈配布資料〉

【資料1-1】 令和7年度本会委員名簿

- 【資料１－２】令和７年度エリア・部会・シンポジウム実行委員会名簿
- 【資料２】令和６年度自立支援協議会活動報告案
- 【資料３－１】令和７年度自立支援協議会活動日程案
- 【資料３－２】令和７年度運営会議・エリア・部会等活動計画
- 【資料３－２別紙】令和７年度区運営会議活動計画案
- 【資料４】令和６年度日中サービス支援型 GH 実績報告
- 【資料５－１】（概要版）令和６年度取組み状況及び令和７年度取組み予定
- 【資料５－２】（本編）令和６年度取組み状況及び令和７年度取組み予定
- 【資料６】次期インクルージョンプラン策定スケジュール概要と協議会からの意見提案について
- 【資料７】地域共生社会推進事業「世田谷たがいちがいプロジェクト」の実施について
- 【資料８－１】玉川エリア自立支援協議会 地域課題抽出シート
- 【資料８－２】世田谷エリア自立支援協議会 地域課題抽出シート
- 【資料８－３】北沢エリア自立支援協議会 地域課題抽出シート
- 〈当日配布資料〉
- 【グループワーク資料１】第２部意見交換グループ分け
- 【グループワーク資料２】意見交換について
- 【グループワーク資料３】世田谷エリア地域課題検討（修正版）

第１部 会場または Zoom

１．開会挨拶

区 障害福祉部 障害施策推進課 須田課長

令和７年度第１回自立支援協議会を開催する。

２．世田谷区自立支援協議会委員構成 資料１－１

事務局 基幹 薬師丸

委員については資料１－１をもって報告とさせていただく。色がついている方々が本年度より委員にご就任いただいた方々である。

３．令和６年度自立支援協議会活動報告案 資料２

事務局 基幹 薬師丸

資料２については、世田谷区基幹相談支援センターのホームページより確認いただきたい。修正等があれば、本日から１ヶ月後の令和７年８月２５日までにご指摘いただきたい。その上で、修正等を行い、報告書として世田谷区のホームページに掲載する予定である。

４．令和７年度自立支援協議会活動計画について

資料３－１ 資料３－２ 資料３－２別紙

各エリア協議会・部会について、資料３－１、資料３－２、資料３－２別紙をもって報告とさせていただく。

５．令和６年度日中サービス支援型グループホーム実績報告 資料４

事務局 基幹 薬師丸

日中サービス支援型グループホームについては資料４のとおりである。障害者の重度化・高

齢化に対応するため、平成30年度の障害福祉サービス等報酬改定において創設され、年1回活動状況の報告を自立支援協議会で行う事が義務付けられている。

令和7年7月11日に開催された自立支援協議会運営会議にグループホームバンプルのサービス管理責任者が出席され、資料4について報告をいただいた。昨年度と比べ、力を入れて取り組み始めたこととして、【2. 支援実績等の(2)権利擁護】の取り組みについて、買い物の希望に応じられるような取り組みや共有スペースの消灯時間の延長の希望に対応している等の報告があった。運営会議では、「この報告書の書式は自立支援協議会の意見を基に作成されたが、どのような報告を自立支援協議会として求めていくのか、議論する必要がある」との意見が挙がった。今後、報告書の記載内容を検討することとする。

鈴木会長

日中サービス支援型グループホームは機密性が高いということで、適正な運営が出来ているか法律に基づき定期的に自立支援協議会の中で報告、評価を受けることとなっている。

6. 障害者差別解消に関する令和6年度の取り組み状況および令和7年度取り組み予定

資料5-1 資料5-2

区 障害福祉部 障害施策推進課 須田課長

資料5-1をもって説明する。

1 ページ、令和6年度の取組み<1>障害差別に関する相談状況 ①相談・問合せ件数は、昨年度に比べ12件増加している。

7. 世田谷区からの報告・協議事項 資料6 資料7

区 障害福祉部 障害施策推進課 須田課長

次期障害福祉計画（次期インクルージョンプラン）の今後の取り組み予定については、資料6をもって報告とさせていただく。

地域共生社会推進事業「世田谷区たがいちがいプロジェクト」の実施については、資料7のとおりである。令和7年6月18日に保健医療福祉総合プラザにて、「たがいちがいプロジェクト」のお披露目を開催した。区内の地域団体や民間企業等を招き、プロジェクトの概要説明や今後展開するワークショップのミニ体験としてオリジナルポスターを作成した。今後のプロジェクトとしては、「1. 街でのアートポスター掲示拡大&SNS発信」、「2. 92万通りのアートポスターワークショップ」、「3. 『世田谷区たがいちがいプロジェクト』アートワークショップの実施」を行う。こうした取り組みを通して、これまで障害理解に関心がなかった層への条例の普及啓発、地域共生社会の実現に向けて取り組みを進める。

8. 質疑応答

質問者なし

第2部 会場

9. 地域課題抽出シートを活用した意見交換 資料3-2別紙 資料8-2 資料8-3

グループワーク資料1 グループワーク資料2 グループワーク資料3

事務局 基幹 薬師丸

本日のグループワークは、これまで運営会議で積み重ねてきた結果を踏まえて行う。今年度の運営会議の取り組みは、次期インクルージョンプランへの意見提出と昨年度から引き続き地域課題の検討が主な活動内容となる。地域課題の検討は、必ずしも次期インクルージョンプランのためだけのものではないが、根拠の一つともなり、限られた時間と機会の中でどのように意見提出へつなげるかが課題となっている。第1回、第2回の運営会議では、地域課題抽出シートのうち、「地域課題として見えてきたこと」と「あったら良い社会資源」に重点を置き、

検討を行った。検討結果としては、**資料 8－2** **資料 8－3**のとおりである。欄の左側がエリア自立支援協議会にて検討した内容である。右側の赤字が区の運営会議にて検討し、挙げた意見である。この取り組みのポイントとして、現行のインクルージョンプランの建付けに合わせて検討するのではなく、多様な意見を挙げることを主眼としてきた。まだ検討方法が確立していない中で2回検討を実施し、「検討方法はこれで良いのか」、「次期インクルージョンプランへ意見提出するためには、説明や検討が不足していないか」、「どこで検討するのか」、「どのように検討するのか」等の課題が挙げた。そこで各エリアのぽーとと基幹の事務局で検討方法について話し合いを行い、第3回運営会議にて再検討した方法を用いて実施した。検討方法及び検討結果については、ぽーとせたがや山内氏より説明いただく。

ぽーとせたがや 山内氏

課題抽出シートを活用し、各エリア自立支援協議会にて地域課題検討に取り組んできた。やはり1つのケースから地域課題は細分化され、様々な課題が見えてきた。検討方法について検討し、結果として「人数が多く、意見のまとめが難しい」、「焦点を絞りにくい」、「『あったら良い社会資源』の表現が多岐にわたるため整理することが難しい」といった課題が明らかになった。課題解決方法の提案は、意見を集約しやすくすることを目的として、「検討グループの細分化」、「グループ内で個別の課題に対し、『あったら良いもの（資源、制度、福祉サービス等）』を出し合う」、「『あったら良い社会資源』の表現方法を統一する」とした。その表現方法は、「『こんな地域（社会資源）になったら良い』をコンセプトに要約した文章を作成する」として、100文字要約の手法を用いて、「〇〇にとって、〇〇があり、〇〇な地域（社会資源）になると良い」と統一することとした。「〇〇にとって」は障害当事者の方や支援者、家族等を主語とする。「〇〇があり」は社会資源や福祉サービスになる。この方法で第3回運営会議にて、玉川エリア自立支援協議会の地域課題を検討した。今回は試行的に運営会議と同じ方法でグループワークを実施したい。

鈴木会長

本日は地域課題抽出シートを基に、「地域にあったら良いもの」をテーマとし、様々な職種の皆さまと意見交換を行う。事例は、世田谷エリア自立支援協議会の地域課題抽出シートを使用する。当日配布資料グループワーク資料3のとおりである。地域の事例から課題を抽出する。

●世田谷エリア自立支援協議会大野会長より、ケース詳細について情報提供した。

●ぽーとせたがや山内氏より、世田谷エリア自立支援協議会の地域課題抽出シートについて説明を行った。

ぽーとせたがや 山内氏

本日のグループワークでは、地域課題抽出シートの右側にある「あったら良い社会資源」を各グループで検討していただきたい。表現方法としては、「〇〇にとって、〇〇があり、〇〇な地域（社会資源）になると良い」に統一する。

●5グループに分かれ、意見交換を行った。ファシリテーターは、ぽーときたざわ望月氏（グループ①）、世田谷区基幹相談支援センター薬師丸（グループ②）、ぽーとたまがわ原氏（グループ③）、世田谷エリア自立支援協議会大野会長（グループ④）、ぽーとせたがや山内氏（グループ⑤）が務めた。意見交換後、グループごとに発表した。

【各グループで挙げた「こんな地域（社会資源）になったら良い」】

ぽーときたざわ望月氏（グループ①）

- ・「支援に困っている支援者にとって、チームで支援できるような仕組みがあると良い」
- ・「どのように情報を得たら良いかわからない人にとって、AIなどが欲しい情報を提案してくれる仕組みがあると良い」

- ・「金銭管理が苦手な人にとって、収入の中で生活費等の項目ごとに上限金額を決めて、制限してくれるアプリがあると良い」

世田谷区基幹相談支援センター薬師丸（グループ②）

課題を抽出する上で、リフレーミングが大切だと意見が挙がった。

- ・「障害のある方にとって、失敗できる地域になると良い」
- ・「障害のある方にとって、リスクの見極めができる支援者がいると良い」
- ・「障害のある方にとって、食事に困らない地域になると良い」

相談支援センターポピー 中川委員（グループ②）

補足として、ニーズレスの方々に対し、支援者がニーズを推測して行動することで、利用者はより支援拒否が強くなってしまう。利用者が失敗することを前提に、支援者はどのように温かく見守ることができるか、支援者としては勇気がいることである。利用者が失敗する権利を守りながら、利用者の命を守っていくことが大切である。利用者が失敗の中で「何を学んだか」を話し合える支援者が増えると良い。

ぼーとたまがわ原氏（グループ③）

- ・「なかなか支援につながらない人にとって、誰でも気軽に入れて、支援者と仲良くなれる居酒屋やカフェがあり、医療や福祉がお店と提携している地域があると良い」
- ・「どこに相談して良いかわからない人にとって、困りごとを入れると使える資源や相談先、専門家を教えてくれるアプリが使える地域になると良い」

世田谷エリア自立支援協議会大野会長（グループ④）

- ・「世田谷区（本人や支援者）にとって、本人がどう生きていきたいのか、本人の本当のニーズを捉えていくために、ここに連絡すれば医療・福祉など必要な機関につながり、連携し、支援力がより充足するようなシステムや情報発信ができる包括的な場があると良い」

ぼーとせたがや山内氏（グループ⑤）

利用者に関われることが大切だという意見が多く挙がった。

- ・「様々な理由によりお金を散財してしまう人にとって、お金が定期的に振り込まれるカード（カエルカード*）があると良い」
- ・「本人が生き方を考えるために、根気強く、ゆっくりと関われる人や場所が地域にたくさんあると良い」
- ・「様々な生活課題がある人にとって、立場や職種に関係なく、本人に寄り添える人の情報がある、人材バンクセンターがあると良い」

*カエルカードとは、クレジットカードから定期的にお金がチャージされるカードである。

鈴木会長

皆さまが提案する中で「妄想かもしれない」、「夢のようなことかもしれない」といった声が挙がっていたが、そこが大切だと思っている。「既存のサービスや既存の資源を組み合わせることも大切だが、ないものをどのようにクリエイティブに作り上げていくか」といったことが多く挙がっていたことが印象的であった。想像できないものは実現できない。自立支援協議会は長く「個の課題を地域の課題に」を合言葉にしてきた。地域の課題が明確化され、その課題は個々の声や姿から出てくる。最終的に世田谷区の次の姿を見出していくことは、とても重要である。今回は、このような手法を用いて、「世田谷の様々な場の中で検討を図っていきたい」、

「新たなサービスをつくっていききたい」といったことだと思っている。

ぼーとせたがや山内氏

今回のグループワーク全体を通して、地域課題抽出シートは未完成ではあるが、好感触であった。ご協力に感謝申し上げます。

世田谷エリア 大野会長

今回のグループワークを通して、地域課題抽出シートを活用し、世田谷区の課題を抽出し、「あったら良い社会資源」が多く実現できたら良いと感じた。

鈴木会長

今回のような取り組みを通して、次期インクルージョンプラン策定への意見が挙がると良い。今回の手法や地域課題抽出シートをそれぞれの場で活用していただきたい。

10. 事務連絡および閉会挨拶

事務局 基幹 薬師丸

次回の本会は、令和8年1月30日午後6時30分の開催を予定している。スケジュールの調整をお願いしたい。

鈴木会長

ご意見・ご連絡は事務局である基幹相談支援センターが窓口となる。これにて令和7年度第1回の世田谷区自立支援協議会本会を閉会させていただく。長時間に渡りご参加いただき感謝申し上げます。